

「食品に含まれるカドミウム」に関する Q&A 追加案

Q：カドミウムが高い食品はありますか。

食品安全委員会の食品健康影響評価によると、「日本では全国各地に鉱床や廃鉱山が多く存在し、米中カドミウム濃度が他国に比べて高い傾向にあり、米からのカドミウム摂取量が食品全体の約半分を占めている。しかしながら、近年、日本人の食生活の変化によって1人当たりの米消費量が1962年のピーク時に比べて半減した結果、日本人のカドミウム摂取量は減少してきている。2005年の日本人の食品からのカドミウム摂取量の実態については、 $22.3 \mu\text{g}/\text{人}/\text{日}$ （体重 53.3kg で $2.9 \mu\text{g}/\text{kg}$ 体重/週）であったことから、耐容週間摂取量の $7 \mu\text{g}/\text{kg}$ 体重/週よりも低いレベルにある。したがって、一般的な日本人における食品からのカドミウム摂取が健康に悪影響を及ぼす可能性は低いと考えられる。」とされています。

しかしながら、水産庁や厚生労働省の調査結果によると、軟体動物（貝類、たこ、いか）、甲殻類（かに、えび）の内臓にカドミウム濃度の高いものが認められており、これらを原料として用いた加工食品である塩辛類の一部にはカドミウム濃度の比較的高いものが認められています。

これらの食品については、一般的には毎日大量に摂食し続けるものではありませんので、健康に悪影響を与える可能性は低いと考えますが、常日頃から、バランスの良い食生活を心がけましょう。

（参考）国内産農畜産物等の実態調査結果

<http://www.maff.go.jp/cd/C-page.htm>

Q：いつも親戚の農家から米をもらっていますが、米中のカドミウム濃度は大丈夫でしょうか。

食品衛生法は、販売のみでなく、不特定又は多数の者に対する販売以外の授与についても規制の対象とされており、その場合は基準値に適合する必要がありますが、親戚など限られた人への授与については、対象外となっています。

一方、我が国で生産される米中のカドミウムについては、農林水産省等が調査を実施しています。農林水産省において重点的に調査されている地域などは、[「http://www.maff.go.jp/cd/C-page.htm の2.](http://www.maff.go.jp/cd/C-page.htm)」を参照して下さい。

米中のカドミウム濃度の高い可能性がある地域においては、生産された自家消費等非売用の米についても、生産者の希望に基づき、JA 等が調査分析を実施しており、販売される米と同様、食品衛生法の基準値を超過する場合は、JA 等が生産者に対して消費しないよう連絡し、翌年度の栽培に当たっては湛水管理等のカドミウム低減対策を講じるよう指導を徹底しています。